

## 研究結果 )

私塾というのは個人の経営する民間施設である。私塾と寺子屋は、日本の明治維新以前における代表的な庶民教育機関である。私塾は庶民教育を普及し、沢山有為な人材を育てた点で極めて重要な地位を示している。古代中国では、私塾は教育施設として機能したが、その規模が小さく、低レベルのものである。『礼記』に「家に塾有り、党に痒有り、術に序有り、国に学有り」というが、塾、痒、序、学いずれも学校の名称である。その中で塾が一番サイズが小さく、また教育程度もこれ相応して低い。

私塾は智徳に優れた私人が創めた民間経営の学舎である。江戸時代に 1500 所私塾が存在したが、様々の名称が冠せられていた。よく使われた言葉は塾、家塾、学塾、村塾、義塾、そのほか、書堂、院、書院、閣、亭などがある。私塾の中では、門戸を構えて、士庶を問わず、集ってくる好学の青年に専門の高等教育を施した。学生は教師の学問や徳を慕って集まり、学問や武芸など一流一派の道統に基づく教育が行われた。私塾は幕府や藩につかえなかった民間儒者その他が主宰する教育機関であった。私塾の種類が多く、漢学塾、国学塾、洋学塾と医学塾など様々なタイプがある。その中に漢学塾が一番多い。

日本の私塾は中国の朱子学の影響を受けた。中国最大書院——白鹿洞書院は理想的な学校として、日本にも大きな影響を与えた。特に「白鹿洞書院揭示」はたくさん私塾の理念になった。江戸儒学における本格的な「揭示」研究は、山崎闇斎から始まった。また、中江藤樹、浅見綱齋、佐藤一斎が「白鹿洞書院揭示」を解釈しており、江戸の儒学者は多様な受容の方法によって、この「白鹿洞書院揭示」を自家葉籠中のものとしていった。私は日本の最大漢学塾（広瀬淡窓の咸宜園）と中国の白鹿洞書院を比較し、分析した。

広瀬淡窓（1782－1856）が創立した咸宜園は、近世最大の漢学塾と評されている。一方、白鹿洞書院は、中国四大書院の最大書院である。咸宜園・白鹿洞書院との相違点を、教育目的、教育方法、訓育の面から比較、分析した。両塾とも、塾生の身分や年齢を問わず、封建学校に特有の差別を一切払拭され、平等の人間関係で学習し、多数の人材を育成した。また両塾とも道德教育を重視するという共通点がある。しかし、白鹿洞書院は、「白鹿洞書院揭示」に基づき、「格物致知」を通して、「修身、齐家、治国」の道德が行われた一方、淡窓思想の根底には「敬天」という原理があり、自己修養が重んじられ、三奪法と月旦評を採用し、塾生の実力を付けた。白鹿洞書院の教育理念と方法は、近世の儒学思想に様々な形で大きな影響を与え、儒学者たちは、理想しつつも近世社会の展開や矛盾に対応した受容の仕方を模索していたのである。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

「近代化の過程における中、東亜三国の認識」・朱玲莉・2007年9月9日～9月10日・南開大学日本研究院4階

横浜国立大学村田忠禧教授の“漢字文化の再統合は可能か—東アジアの漢字文化の過去・現在・未来”について論文の中国語訳を担当

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

1. 『葉隠』の武士道思想・朱玲莉・『日本研究論集』・2007年10月
2. 広瀬淡窓の教育思想・朱玲莉・『求索』・2008年12月
3. 江戸時代の文化教育消費・朱玲莉・『消費経済』・2008年12月
4. 咸宜園と白鹿洞書院—日中私塾の比較研究朱玲莉・待発

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :